

# ITの活用は事業継続につながる！ 工事進行基準システムで月次決算体制へ



「感謝の心」は青森県三沢市・小坂工務店の基本理念だ。

「100年続く会社には必ず感謝というキーワードがあります。お客様を大切に、従業員間も『ありがとう』と言える関係。これをベースに事業を継続し、三代目経営者を生むことが私の仕事です」

小坂仁志社長は会社を100年以上継続させるという目標を持っている。同社の創業者は宮大工から事業を興した小坂良治・現会長。2008年に創業50年を迎え、経営をバトンタッチした。



代表取締役 小坂仁志氏

## 会社概要

**株式会社小坂工務店**  
青森県三沢市南町4-31-3469  
設立：1958年  
従業員数：39名  
事業内容：総合建設業、不動産仲介・販売・賃貸業、携帯電話販売業  
<http://www.kosakagc.co.jp/>



同社は従業員の約半数が女性である

## 業務別に文書を整理 データ化で素早い参照

顧客に喜ばれる会社として事業を続けるために、小坂社長が約8年前に着目したのが文書管理システムだった。なぜ事業継続と文書管理が結びつくのか？ 小坂社長はその理由を次のように話す。

「経営を引き継ぐ前に業務内容を把握しようと文書チェックを始め

たのがきっかけです。その際、スキャナーでデータ化し分類整理するのが一番効率的でした。中小企業は誰か一人がいなくなると業務が止まる場合がありますが、データ化された業務書類はすぐ取り出せるので若手の教材としても利用でき、業務の継続に役立ちます」

## 従業員が自ら意見を出し 新システムの構築へ

業界内でも先進的なIT活用をしている小坂工務店だが、2008年に日本政策金融公庫青森支店中小企業事業の勧めでソフトアカデミーおおもりが開催したIT経営者研修会に足を運んだ。その後、財団法人21おおもり産業総合支援センター主催のIT経営成熟度診断（地域力連携拠



文書管理システムの様子  
ホームページでも積極的に情報発信。基地局の建設を機に始めた携帯電話ショッピは、表彰を受けるほどの好実績を上げている。

点事業）、東北IT経営応援隊の訪問コンサルティング事業、同財団の専門家派遣事業などを用いてITコーディネータ・澤田徳寿氏のサポートを受けた。「トップダウンでIT化を進めてきたためある種のマンネリ感もあり、客観的な診断が受けられるのは良い」と考えたからだそう。

このシステムの狙いは、長期にわたる工事の進行状況と予算を現状把握すること。「3年かかる工事の収支が3年後にわかるのではなく、毎月棚卸しをして月次決算をしたい」という小坂社長は、今後建設業界ではこの考え方が主流になると見ている。いち早い導入で金融機関からの信用がさらに上がる

行のもと、意図をよく理解したうえで入力しやすいさや写真の扱いなど積極的に意見を出したという。2009年6月に第一次仮導入、12月にはシステムが完成した。今後、データが蓄積されれば工事実績のデータベースとなる。「過去の工事内容がすぐ調べられ、最終的には会社存続への基盤システムになるでしょう」と小坂社長。この「宝の山」をどう生かすかが次のテーマとなる。

## 金融機関紹介



**株式会社 日本政策金融公庫  
青森支店 中小企業事業**  
中小企業事業統轄 上條信弥氏(写真左)  
融資課長 池添誠氏(右)

小坂工務店が経営者研修会に参加するきっかけを作ったのが日本政策金融公庫青森支店である。同支店は50歳までの経営者(次世代含む)による「青話会」を形成し、定期的に勉強会を開催している。ITコーディネータ澤田氏からIT経営応援隊の主旨を聞き、「単なる電算化ではなく、経営全体を捉えてその中でITを活用するという内容が政策金融機関としての支援方針に合っており、千載一遇のチャンスだと思いました。また、澤田さんの熱意に心が動いた面もあります」と中小企業事業統轄の上條信弥氏は振り返る。

## 支援機関紹介



**財団法人  
21おおもり産業総合支援センター**  
産業振興部 主事 太田朗史氏(写真左)  
地域力連携拠点事業 応援コーディネーター  
山本進氏(右)  
<http://www.21aomori.or.jp/>

経営者研修会の後、IT経営成熟度診断、さらに専門家派遣事業という二つの事業で小坂工務店の工事進行基準システムの構築をサポートしたのが、財団法人21おおもり産業総合支援センターである。同センターは平成21年度地域力連携拠点事業の実施機関にもなっており、応援コーディネーターの山本進氏が企業の個別相談を入口に、適切な支援メニューを案内している。

## サポーター紹介



**ITコーディネータ  
澤田徳寿氏**  
ITCおおもり  
<http://www.7-dj.com/itc-aomori/>

青森県内企業のIT経営推進に向け、関係機関に積極的に働きかけて地域連携の基盤作りを行っているITコーディネータ。今回は、ソフトアカデミーおおもり、日本政策金融公庫青森支店、21おおもり産業総合支援センターそれぞれの連携により、小坂社長の信頼を得て、段階を踏んだサポートを実現した。小坂工務店のIT活用は社長主導で進んでいたが、今回はボトムアップを目指し、あえて社長が同席せず、従業員が自ら意見を出して進めるようにした。小坂社長は上がってきた案をチェックする役割に専念。「我々はITの素人ですから、やりたいことがあっても『こうしたい』という解決策が出てこないこともあり。意見をうまく引き出してもらい、システム導入の先生役にもなってもらいました」と感想を話す。工事進行基準システムを通じて、従業員の力をさらに伸ばせたことも支援の大きな成果だ。